

鴨居 玲 展 -Camoyの生きざま-

2021年5月22日(土)～7月18日(日)

[前期:～6月10日 後期:6月11日～]

※後期は6月25日(金)～に変更となりました。

拝啓

時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。つきましては、以下に展覧会の詳細をご案内いたしますので、ご取材・ご紹介などのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

敬具

■ 開催趣旨

北國新聞社主筆であった鴨居悠(ゆう)と茂代(もよ)の間に生まれた鴨居玲。玲には、兄・明(あきら)と姉・羊子(ようこ、本名・洋子)がいました。悠は1945年、敗戦の日に社説を書き、「石川県は文化芸術で生きる」をスローガンに活動を始めます。3日後には、社内で「石川県美術館新設発起の会」を開き、その後も「文化で国をたてるしか道はない」と言い続けたといいます。兄・明は建築家を目指していましたが、南方戦線にて戦死。また、姉・羊子は新聞記者を経たのち、下着デザイナーとして戦後の女性に大きな影響を与え、また画家として活躍しました。本展覧会では、初期から最晩年にいたる作品に加え、初公開となる資料も展示し、鴨居玲の人物像に迫ります。



① ※後期のみ



②



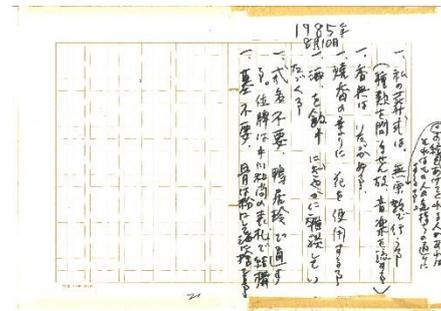
③



④



⑤ ※後期のみ



⑥



⑦

① 夜(自画像)1947年 ②踊り候え1974-75年(個人蔵) ③教会1976年 ④私の村の酔っぱらい(A)1973年

⑤自画像(絶筆)1985年 ⑥自死の一月前に書いた遺言 ⑦鴨居羊子《用心棒もしくはヒモ》1983年

■ 展覧会概要

・展覧会名 鴨居 玲 展 -Camoyの生きざま-

- ・会 期 2021年5月22日(土)～7月18日(日)
- ・会 場 笠間日動美術館 企画展示館(茨城県笠間市笠間978-4)
- ・開館時間 午前9時30分より午後5時(入館受付は午後4時30分まで)
- ・休 館 日 毎週月曜日
- ・入 館 料 大人1000円、65歳以上800円、大学・高校生700円、中学以下無料、
春風萬里荘(北大路魯山人旧居)の割引:当日の美術館チケットをお持ちの方は、
200円割引(中小生は100円)にてご入館いただけます。割引:20名以上の団体は200
円割引、障害者手帳をお持ちの方、その同伴者1名は各半額割引。
- ・主 催 公益財団法人日動美術財団 笠間日動美術館
- ・後援予定 茨城県/茨城県教育委員会/笠間市/笠間市教育委員会/茨城放送/茨城新聞社/
朝日新聞水戸総局/産経新聞水戸支局/東京新聞水戸支局/毎日新聞社水戸支局/
読売新聞水戸支局/NHK水戸放送局

■ 出品内容

笠間日動美術館所蔵約40点の鴨居玲作品及び資料多数。鴨居羊子作品8点及び資料。鴨居悠
関連の資料など。「鴨居玲の部屋」に愛用品など多数展示。

■ 会期中のイベント

※対談会「鴨居玲と姉・羊子」は現在の状況を鑑み、中止とさせていただきます。

5月22日(土)14:00～

対談会「鴨居玲と姉 羊子」講師:当館館長 長谷川徳七 同副館長 長谷川智恵子

ギャラリートーク 各日14:00～(約30分)

6月12日(土)/7月17日(土)

■ 交通案内

- [JR利用]・常磐線友部駅北口より『かさま観光周遊バス』(9:55/10:50/11:50発)で15分
「日動美術館」下車後、徒歩1分(1回乗車につき100円/1日フリー乗車券300円)
- ・水戸線笠間駅より徒歩約30分、レンタサイクル約10分
 - または市内循環バスで約15分「日動美術館入口」下車徒歩2分

- [自動車利用]・常磐道友部JCT経由、北関東道友部ICより国道355号線経由約6km
- ・東北道栃木都賀JCT経由、北関東道笠間西ICより国道50号線経由約8km

- [高速バス利用]・『関東やきものライナー』*現在、一部運行中
秋葉原駅中央改札口前、東口交通広場8時20分発で約2時間
「笠間稲荷神社入口」下車徒歩5分
*座席予約制(空席がある場合は予約無しで乗車可)、片道1650円、往復2900円

- 問い合わせ先(担当: 亀山/川崎) 309-1611 笠間市笠間978-4 笠間日動美術館
Mail k-museum@nichido-museum.or.jp TEL 0296-72-2160 Fax 0297-72-5655